

ばんけい

教育ほつとにゅーす

かわら版

こ みち
教育の小径

No.151

2021 May

5月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生

今月のことば

しぜんとうた
自然淘汰

自然の環境に適応できる生き物は生き残って子孫を残すことができるが、適応しない生き物はやがて死滅していく現象のことを言います。

履修主義と修得主義の問題

- 子ども1人に1台の情報端末を整備する事業について審議するなかで、教育課程の履修と子どもの学びとの関連から、履修主義と修得主義の問題が浮上しました。
- 履修主義と修得主義にはそれぞれにメリットとデメリットがあり、今後は両者を適切に組み合わせ、長所を取り入れていくとしています。

今月の
記念日 憲法記念日
(5月3日)

日本国憲法は、昭和21年(1946年)11月3日に公布され、翌年5月3日に施行されました。これを記念して、昭和23年に祝日として制定されました。

なぜ話題になったのか

「履修主義、修得主義」の文言は、中央教育審議会が令和3年1月26日に公表した答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」のなかに見られます。

分科会で履修主義と修得主義について話題になった背景には、「GIGAスクール構想」によって子ども1人に1台の情報端末が整備されると、これまで以上に「個別最適な学び」が進行することがあげられています。ICTを有効に利用することによって、時間的、距離的な制約が取り払われ、いつでもどこでも学びを深めることができるようになるからです。これによって、子ども一人一人の学びがさらに多様化していくことが予想されます。

いま一つの背景には、新学習指導要領が全面実施され、すべての子どもたちに各教科等の「資質・能力」を確実に実現することが一層強く求められていることがあげられます。

履修主義と修得主義については、平成10年版の学習指導要領が一部改正された平成15年ごろにも話題になりました。「個に応じた指導」を充実させ

る観点から、習熟度別学習が導入され、補充的な学習や発展的な学習が求められたときです。子どもの学びの拡散と多様性が危惧されたからです。

履修主義と修得主義—どう違う

履修するとは授業を受けることをいいます。通常は年間授業日数の3分の1以上の欠席がなければ履修したとみなされます。一定期間に学し授業を受ければ、自動的に進級、進学することができますから、履修主義は「年齢主義」に近い概念だと言えます。そのため、その学年で何を習得したか。どの程度学力がついたかということは重要な判断基準になりません。あくまでも登校した日数が重要なデータになります。

例えば3年で習得すべき事項を身につけていなくても4年に進級できますから、4年になってから3年の事項を学びなおすか、未習得のまま4年の学習に取り組むことになります。

一方、修得主義は、所定の課程を履修し、目標を実現しているかどうか求められます。高等学校や大学などの単位認定がこれに当たります。ここでは、科目ごとに目標に照らして習得状況を評価・判定する作業が必要になります。もし、習得状況が不十分なときには、原級留置(留年)することになります。こ

れは「課程主義」とも言われています。義務教育においてはマイナス面が大きいことから、また保護者の理解も得にくいことからこれまで取り入れられてきませんでした。

履修主義と修得主義にはそれぞれにメリットとデメリットがあります。これまでは、履修主義に立って教育課程を認定してきました。

今後はどの方向に行くのか

「答申」では、義務教育段階においては、「進級や卒業の要件としては年齢主義を基本に置きつつも、教育課程を履修したと判断するための基準としては、履修主義と修得主義を適切に組み合わせ、それぞれの長所を取り入れる」としています。

各学年においてももし未習得状況の子どもがいた場合、家庭の協力も得ながら補充などの手だてをとり、習得状況を高めるために一層の努力が求められます。各学校では今後、ICTの有効な利活用、校内の指導体制の整備、家庭との協力体制の構築などの課題に取り組む必要があります。

「答申」は「協働的な学び」を重視するとともに、「個別最適な学び」を実現するため、能力別、異年齢編成による指導についても論及しています。

学級経営の基礎

学級経営は基盤か基本か

研究授業後の授業研究会の場で「今日の授業がよく展開されていたのは、日ごろの学級経営がよく行われているからですね」などと、学級経営の重要性がたびたび指摘されます。これは、学級経営が授業の展開に大きく影響することを物語っているものです。

日ごろから子ども同士の間関係が醸成されている学級では、自由な話し合いやグループ活動が見られます。教師との信頼関係が構築されている学級では、子どもと一体になった授業が展開され、アットホームな雰囲気を感じます。子どもにストレスやギスギスした感じは受けません。学級に学習のルールやマナーが確立していると、授業がスムーズに展開されています。

こうしたことから、学級経営は「授業の基盤だ」と言われます。住宅にたとえると、学級経営は家の土台の部分にあたります。授業が建物です。授業は学級経営の上に成り立っているという意味です。

それに対して「基本」という言い方があります。「基本」とは「物事のよりどころとなる大もと」（明鏡国語辞典）のことですから、学級経営が授業の基本になってしまいます。授業の基本は、確かな目標を設定し、その実現に向けて、子どもに即した多様な指導方法を工夫することです。

教科の学習指導案には、日ごろの学級経営について記載されていません。しかし、授業を参観していると、そのことがよく見えてきます。同じ学習指導案で授業を行っても、学級によって大きく違うのは、学習指導案の受けとめ方に差異があるだけでなく、日ごろの学級経営が違うからです。

教育の動向

小学校全学年で35人学級

1学級の上限の人数を定めた法律が改正されました。令和3年度から、全国の公立小学校でこれまでの1学年に加えて2学年から「35人学級」に段階的に移行していきます。令和7年度までに全学年で実施される予定です。

1学年の子どもの数が36人になると2学級になり、1学級の人数は18人になります。全学年での1学級あたりの人数の見なおしは、45人から40人になった昭和55年度以来です。

実施の背景には、文部科学省が財務省に長年要求してきた課題であったこと、近年子どもが多様化し、学習や生活

面においてよりきめ細かい指導が求められていること、新型コロナウイルス対策として教室内での「3密」を避ける必要があること、さらにわが国の1学級当たりの人数は諸外国と比べると、多いことなどがあげられます。

実施に当たっては、多くの課題があります。学校によっては、教室の確保が難しくなります。余裕教室をもとの教室に戻すことができる学校はまだよいのですが、絶対的に不足する学校もあるでしょう。また、学級増に伴う教師の確保も課題になります。小学校教員の採用試験の倍率が低下するなかでいかによい人材を確保するかです。

そして最大の課題は、学力の向上や不登校児童の減少など「35人学級」の実施効果を実証することです。

北俊夫の「実践と研究」の足あと 19

島しょ教育に携わる

指導主事として初めて赴任したのは東京都の伊豆大島でした。大島町には東京都教育委員会の出先機関(大島出張所)があります。仕事の範囲は、大島町のほかに新島と式根島からなる新島村、神津島村、利島村の小学校、中学校、高等学校でした。大島からほかの島への移動手段は船だけです。日帰りはできませんでした。

はじめての授業参観は式根島で行われた初任者研修でした。対象者は1人でしたが、校内の先生方も参加されました。授業は4年の音楽。題材は「もみじ」でした。子どもたちは「秋の夕日に照る山もみじ」と歌っていましたが、周囲の木々は紅葉することがありませんから、実感することができませんでした。いまではビデオで紅葉の風景を

視聴させることができます。当時はそのような便利な機器はありませんでした。その先生は都内の商店街に飾られていた模造の「紅葉」を持ち帰っていました。

いずれの島においても、学校は少人数でしたから、小規模校の利点を生かした学校運営、授業づくりが共通の課題でした。具体的には、基礎学力の向上と基本的な生活習慣の確立です。当時から「へき地に光を」から「へき地から光を」と言われ、「へき地の学校から学ぼう」が合言葉でした。

ある教育長が「先生方は子どもたちに学力をつけるためとてもよく頑張ってくれている。それは、島を守り育てるためなのか。島を離れさせるためなのか」と言われたことがありました。子どもたちは学力をつけると、やがて島を離れるという現実がありました。

INFORMATION



保護者と語りたい 子育て話材50

子育てに悩む保護者と
保護者を見守る先生に向けた
とおきの話材集

<Pick Up!>

- ⑨ 授業参観の仕方一学級全体にも目を向け
- ⑮ 学習意欲を高めるコツ一先の見通しをもたせる
- ⑳ 夏休みの自由研究一アドバイスのヒント

保護者会の
話題づくりに、
学級通信のコラムに、
そのまま使える!

A5判112ページ 定価:本体 1200円+税

編集後記

先日、小学生を対象に「学校で流行っている話題」についてアンケートをとったところ、「韓流アイドル」や「海外スター」という回答が比較的多く見られました。小学生でも簡単に、世界中の情報を享受できる現代において、興味をもつジャンルに、もはや大人も子どもも関係ないなど実感しました。(F記)



企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2021年5月1日